

北海道のクルーズ船の寄港促進に向けた取組

北海道総合政策部 交通政策局物流港湾室

北海道は四方を太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、海の玄関として35の港湾を有しており、その周辺や背後圏には、世界自然遺産の知床をはじめとする豊かな自然環境や四季折々の彩り鮮やかな景観、心を癒す温泉や新鮮な食、地域の風土や歴史が育んだ生活・文化などが大きな魅力となっており、国内外から多くの観光客が訪れております。

こうしたなか、道内港湾におけるクルーズ船誘致の機運も高まっており、近年、道内港湾へのクルーズ船の寄港も増加し、多くの乗船客が訪れることで、地域の経済や観光の振興に寄与するほか、北海道の魅力を世界に発信する絶好の機会となっています。

道では、各港湾管理者との連携を強化し、本道の各港湾の共通する課題の検討・解決を進め、各港湾の機能強化を図るため、「港湾機能強化連携推進事業」に取り組んでおります。

その一環として、昨年9月には、東京ビッグサイトで開催された、アジア最大級の規模と実績を誇る旅行・観光イベント「JATA 旅博 2013」（一般社団法人日本旅行業協会）に道内の港湾管理者と連携し出展いたしました。

本イベントでは、来場者にパンフレットや観光用DVDなどで港や地域をPRするほか、国際商談会に参加し、ドイツ、オーストラリアなど



10カ国（地域）14の旅行会社に道内港湾を活用した観光地ツアーの紹介や意見交換を行いました。

このなかで、北海道全体の認知度や人気の高さは伺えたものの、クルーズの寄港、港湾などに関する情報があまり知られていないといった課題が把握できたところでした。

北海道には、本年6～9月にかけて米国の客船運航会社プリンセス・クルーズ社所有の大型クルーズ船による周遊クルーズなどにより、150回程度クルーズ船の寄港が予定されていますが、今後とも、さらなる寄港の促進に向けて、次のような対応が必要であるものと考えます。

1 地域と一体となった取組の強化

北海道や地域の魅力を感じてもらうためには、地域の特性を生かしたイベントや名所などについて地元関係者等が一体となって取組、おもてなしによる活力ある港づくりを進めることが必要です。このため、地域の方々にクルーズへの興味をもってもらい、寄港が国際的な人的交流の機会と位置づけてもらうことが重要です。

また、限られた時間で地域の魅力を感じてもらうためには、観光地までのシャトルバスの運行など、円滑な移動の確保も必要です。



2 ユニバーサルデザイン観光の実現に向けた体制整備の推進

クルーズ船利用客は、シニア層の割合が高く、車いすを使用する方々もいることや、旅行の形態が団体旅行から個人旅行にシフトされている状況から、寄港地のバリアフリー化やサービスの向上などが一層重要になります。

また、外国人乗船客のニーズにも対応できるよう、多言語の案内板設置や観光パンフレットの作成といった、公平なサービスや情報提供ができるような取組も必要です。

3 オプションツアーの充実

広域分散型の地域構造の北海道は、寄港地から目的地までの移動時間が長く、滞在時間が限られる場合もあります。このため、地元関係者と連携しながら定番だけではなく特別感のあるツアー造成や、途中で立ち寄れる観光スポットの設定など、乗船客の様々なニーズに応え、満足度の向上が図られるような取組も必要です。

道としては、こうした方向性を踏まえながら、引き続き、港湾管理者やクルーズ振興の協議会等と連携を図り、クルーズ船の誘致が効果的、効率的に促進されるよう、旅行イベントでの周知などのPR活動に取り組むほか、関係機関への迅速な出入国体制の確保要請など、北海道のクルーズ振興に向けて取り組んでまいりたいと考えております。